



APOLLO
MEDICAL HOLDINGS

海外研修だより

～薬剤師だって、空を飛ぶ～



視察内容

視察地：ボストン・ニューヨーク

日程：2015年10月12日～10月19日

10月12日

成田空港

オリエンテーションセミナー・研修ブリーフィング実施

10月13日

マリオ・ラトガーズ大学にて講義

- ① アメリカ並びにラトガーズ大学での薬局実務と教育
- ② 現代のアメリカ薬局における倫理及び専門職としての問題
- ③ アメリカでの外来施設における薬剤師の変わりつつある役割
- ④ 体験教育＝Pharm.Dのための訓練の最後のステップ

大学病院へ移動

訪問①RobertWoodJohnson大学病院見学

訪問②SpecialtyRX長期看護施設に特化した薬局の見学

10月14日

マリオ・ラトガーズ大学にて講義

- ⑤ DIにおける薬剤師の役割
- ⑥ 医療の場における医師との共同薬物管理
- ⑦ 薬剤師による患者とのコミュニケーションの重要性

訪問③薬剤デリバリー研究所訪問Catalent

10月15日

マリオ・ラトガーズ大学にて講義

⑧ 薬剤師と医薬品、生物医薬品業界
プログラム修了式

訪問④CVS Caremark Corporation チェーンドラッグストア見学
マンハッタンにて自由視察

10月16日

ボストンへ移動車中にて「まとめセミナー」実施・意見交換

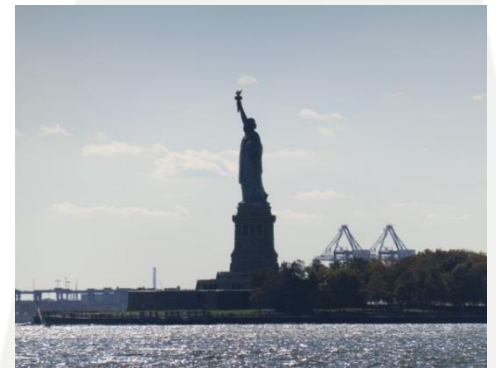
訪問⑤ブリガムウーマンズ病院

10月17日

終日自由行(ボストン市内観光)

10月18日

ボストン国際空港発(ニューヨークJFK空港経由)・成田空港着
到着後解散



視察内容

■ 薬剤師による患者とのコミュニケーションの重要性

薬剤師におけるコミュニケーションスキルの重要性について

- 患者中心のケアにおいてコミュニケーションの重要性: 患者の健康状態を評価し、治療が患者のQOLにどのような影響を与えるかを評価するために必要な情報交換である。
- 患者中心のケアにおけるコミュニケーションのメリット: 医療過誤の削減、ノンコンプライアンスの問題を減らす、薬剤の有害反応の減らす、アウトカムの改善・ケアの満足度を増やす、患者や政府や社会にとってヘルスケアの費用を削減する
- 患者中心のケアにおいて必要な事項: 病気の体験を理解する、患者を人間として認識する、患者とより平等な関係を構築する、治療のための協調を促進する、患者の個人的な影響を自覚する
- 効果的なコミュニケーションの要素: 相互理解と相互信頼の関係、共感、非言語コミュニケーション、自己主張・客観性
- 文化の違い: アメリカは多民族国家のため、文化の違いに注意する必要がある。文化によってヘルスケアの考え方が違う。



参加者からの感想

今回アメリカ研修に行かせていただき、大学での講義や現場の見学をさせていただく中で印象深かったことは、日本に比べて医療の形が様々であることでした。大量に調剤した薬を大量の患者さんの自宅へ運ぶ薬局、簡易クリニックと呼ばれる看護師や薬剤師が医療を提供する場や、薬剤師による予防接種、今回見学の機会はありませんでしたが医師以外の医療従事者が主体となって医療を提供する場が他にもいくつかあると聞いて驚きました。これは、アメリカの医療従事者それぞれの医療に対する意識、つまり病気の人たちを健康にしようとする意識が高く、それぞれが主体性を持って行動していることの結果だと思えます。

